

2022年5月29日（日）
浦安まちづくりシンポジウム
於 浦安市

今まちづくりに何が問われているのか

千葉大学大学院社会科学研究院教授 関谷 昇

成熟期を迎える浦安市

○開発都市から持続可能都市への転換

- ・ 長期的視点からの土地利用、住環境整備、都市機能の充実
- ・ まちづくりの新たな活力づくり
- ・ 元町・中町・新町の各々における個性の発揮

○一人ひとりの幸福の実現

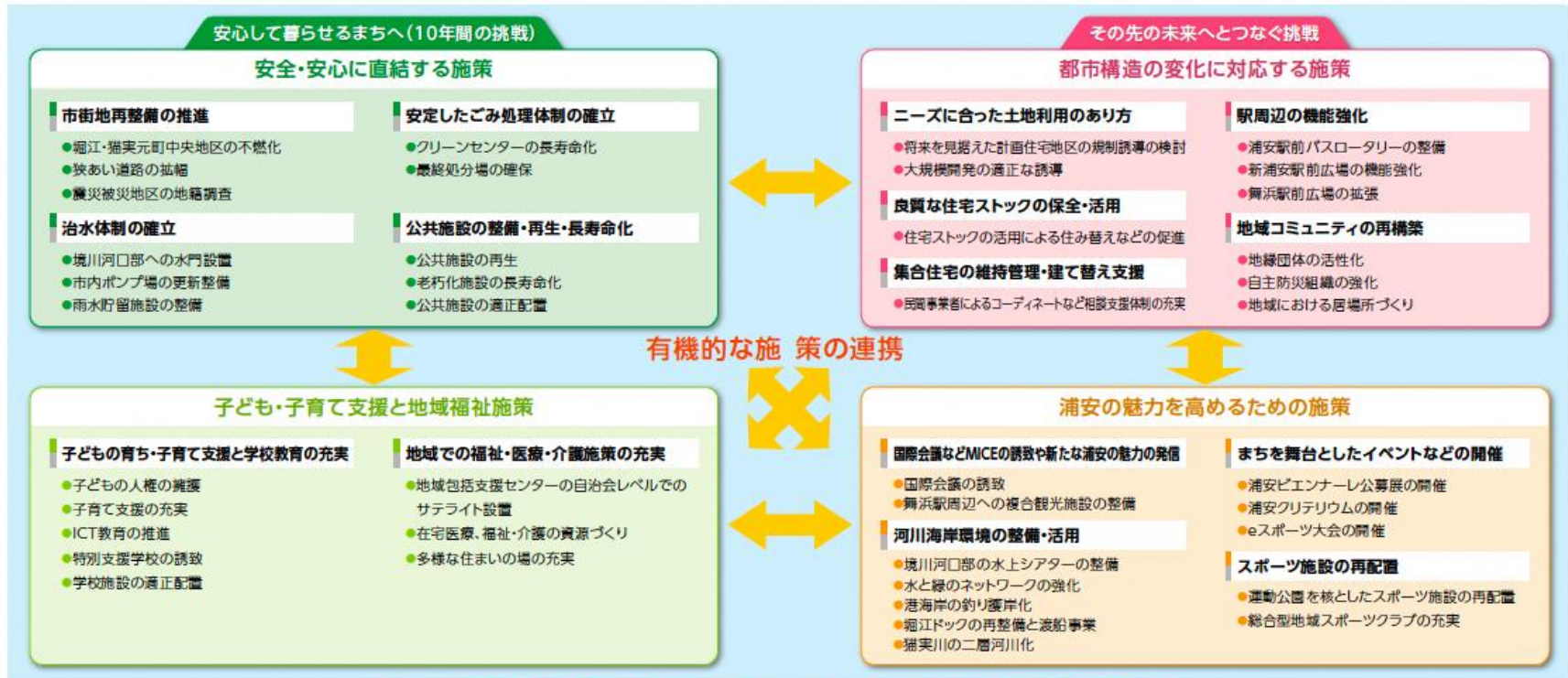
- ・ 自分なりの生活スタイルの実践
- ・ 各自の生活に必要な不可欠と思われるまちづくり
- ・ 各々の生活課題に対する特色ある支援

○新しいコミュニティの構築

- ・ 市民と行政との硬直化した関係の見直しと再構築へ
- ・ 地域資源（人、金、物、場）の発掘、育成、活用
- ・ プラットフォーム構築の必要

7 うらやすポリシーミックス ～豊かな成熟社会を創造 するための挑戦～

将来都市像を実現するためには、市民、事業者、市が連携して、様々な施策を効果的に組み合わせていくことが重要です。このため、重要度や緊急度を見極めた施策の展開を図るため「うらやすポリシーミックス」を設定し、豊かな成熟社会の創造に向けて取り組みます。



真に必要な施策の効果的な実行により、将来都市像の実現を目指す

人が輝き躍動するまち・浦安 ～すべての市民の幸せのために～

社会モデルの転換期

「囲い込み社会」（20世紀）

- ・ 明確な境界線によって仕切られた各領域・セクター・組織
政治行政、経済、社会がそれぞれに独自の領域を形成
- ・ 一定の枠組みを前提とする競争と保障
業界内部のシェア争い、縦割り行政、象牙の塔としての大学など
- ・ 棲み分けられたまちづくり
自治会・町内会、PTA…、世代別・目的別の地域活動
閉鎖的コミュニティ、タテ社会（内と外）、同調圧力など
↓
- ・ 仕切られた社会と理想のアイデンティティ
上位下達、年功序列、終身雇用…
社会に適合する自分、成功モデル…
単一の帰属意識に基づく「理想の自分」（individual）

→こうした社会が大きく崩れ出している現在 ex. 生きづらさ、適合しない自分
社会モデルが変わりつつある過渡期

越境する社会、連携する地域へ

「越境する社会」（21世紀）

- ・ 境界線を越え、相互に交わる各セクター
グローバル化する競争、SNSを通じた交流
業界内部の争い・縦割り行政・知の独占の流動化、囲い込みの限界
- ・ 分野横断的な連携、集合知、共創の模索
越境したヒト・カネ・モノ・情報の循環、付加価値化
知や技術のイノベーション、異色のコラボ、副業、ボランティアなど
- ・ 多様な主体／手法／資源活用のまちづくり
自由な参加、自治、分野を越えた多様な主体・団体の連携
緩やかなつながり、相互評価（peer network）
↓
- ・ 個人化／多様化する社会と理想のアイデンティティ
個人化する社会、多様な働き方、能力主義
ワークライフバランス、社会的公正、ISO、SDGsなど
多様な帰属意識に基づく「理想の自分」（dividual） ex. 色々な顔

新たなコミュニティを創出できるか？

◎ 「行政拡大」から「行政縮小」の時代へ

明治期以来、拡大の一途をたどってきた行政 → 行政主導のまちづくり
地域自治を行政が回収し、税金を通じて行政サービスを提供する形に転換（分配行政）



少子高齢／人口減少社会の到来

従来型の行政のあり方（＝分配・再分配行政）が物理的に厳しくなる時代
縦割り行政とまちづくりへの弊害

中央省庁の縦割り → 自治体の縦割り → 地域コミュニティの縦割り → 課題解決の困難

◎ 「資源の新しい流れ」とコミュニティの新たな可能性

- ・ 自助／共助／公助の境界線の流動化 → 誰が何をなすべきかの見直し
身近な問題群（公衆衛生、子育て・教育、医療介護、働き方、交通、土地・防災など）
市民が自分たちでできること（＝自助・共助）は自分たちで実践する
代表者と市民との応答的な関係を通じて、公共的活動（＝公助）を具現化する



- ・ まちづくりに必要な「ちから」（諸資源）をいかに創出できるか？
自分というものを表出できる地域社会
多様な世代・立場の参加、地域社会での人材育成・資金循環、持続可能な取り組み
コミュニティ× 専門知・集合知 × イノベーション × ビジネス → 「共創」

「あいだ」がない公共空間

○残り続ける「囲い込み社会」 →私的世界へのひきこもり

大衆社会に顕著な「私化」

公的領域との断絶（遠くなる政治・行政）

○社会の分断状況

●閉鎖的関係性→資源の枯渇→更なる内向き傾向という負のスパイラル

●学校／職場／地域など従来の枠組みでは対応困難な諸問題の噴出

→ リスクの個人化（競争社会と自立、自己決定／自己責任）

●能力至上主義（自己努力と成功への評価）が招く社会分断

→ 競争の助長、他者評価の希薄化、無意識の差別？

○「あいだ」がない公共空間

公共的な議論の萎縮、まちづくり資源の枯渇

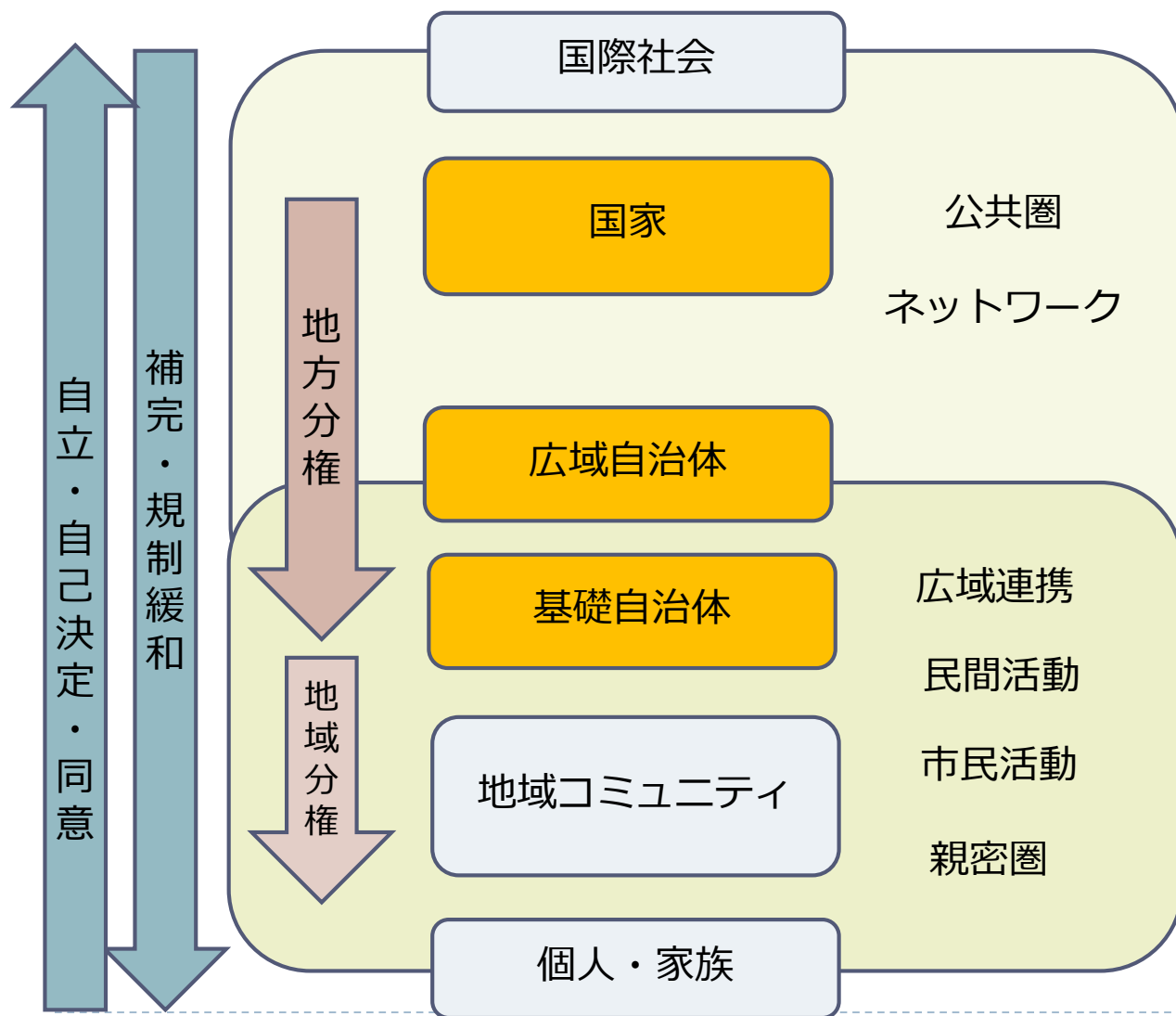
デモクラシーの暴走 →ポピュリズム

機能調達のみで傾斜した官僚的統治の問題

「多様なつながり」としてのコミュニティ

- ・ 人間生活における「有機的なつながり」の回復
 - 「生まれる」「育つ」「学ぶ」「働く」「支える」「老いる」「死ぬ」
 - ライフステージのつながり、多世代のつながり、自然や場所とのつながり
 - 「つながりの回復」としての地域コミュニティ再生
 - 分野、世代、地域内外が横断する形で、地域の諸資源を「生きる力」に変える
- ・ 「一つのものへの強い依存」より「多様なものへの緩やかなつながり」を重視する傾向
 - 多様な自分 (individual → dividual) 、多様な足場、多様な生き方
 - 政治や行政への依存 → 多様な市民参加、自助や共助の創出
 - 一つの会社への固執 → 多様な働き方、ビジネス機会の拡充
 - 特定の団体に委ねられた地域づくり → 多様な主体による地域づくり
- ・ 「コミュニティ」への多様な貢献と相互承認
 - 自分の知識・スキル・経験を活かすことができるまち → 自分なりの生き方の追求
 - 仕事・地域活動・ボランティアなど各々に貢献する人々が互いに尊敬し合える
 - 社会から見放されていることへの憤りを共有する必要（自己責任論では解けない）
 - 自己と他者が、自分たちに関わる生活の質や充実感を、ともに形づくることが重要

補完性原理とコミュニティの重層性



補完性原理とは

より狭域の主体・共同体において、自己決定と自治が行われることを原則とする。

当該主体・共同体が自ら不可能と判断する場合は、合意形成を経て、より広域の主体・共同体が補完する。

各々のコミュニティの意味を問い直し、その関係性を再構築する

いま自治体は何をすべきか？

新しいコミュニティの構築へ向けた中長期的な歩み
自治体の実情に即した構造転換の必要



様々な「関係性」を価値化して、まちづくりの「ちから」に変える
多様な資源を引き出す「プラットフォーム」の構築

◎地域活動単位の横断化

- ・ 閉鎖的関係性の突破、新しい出会い・相互補完・価値創造
- ・ 団体、分野、世代を超えた柔軟な「つながり」の創出

◎行政と市民との役割分担の見直し

- ・ 地域課題の徹底共有
- ・ 二者間協働から「多者間連携」のまちづくりへ

◎広域行政の本格化

- ・ 基礎自治体を超えた広域的な政策連携
- ・ 地域内外の諸資源の多角的活用

まちづくり基本条例の原点

◎自治体のあり方に関する基本的事項

- ・国と自治体との関係（地方自治法第2条第12項 cf. 憲法92条）

「地方公共団体に関する法令の規定は、地方自治の本旨に基づいて、かつ、国と地方公共団体との適切な役割分担を踏まえて、これを解釈し、及び運用しなければならない」

- ・自治体に与えられている自由度を最大限に活かし、自治体やコミュニティの可能性を引き出す枠組み

◎課題解決のための「ルール」解釈・運用・策定

- ・縦割りを克服する総合行政を可能にさせる制度運用の基準・原則・手続き
- ・自治体の事業を規定している様々な「法」（根拠と目的）を、自治体が抱える課題解決の観点から解釈していく
- ・政策を実現させる運用原則としての条例
 - 現行制度の継続／法解釈による独自の政策開発／新たな自己立法・行政運営
議会運営・市民参加の遵守規範／制度設計／運用手続
- ・ルールがあることによって、市民・行政・議会が目的を確かめ、動き出せるきっかけとプロセスが確保される

豊かなまちづくりを拓く条例運用に向けて

●多様な価値観の共存を可能にする枠組み

- ・特定の価値観を盛り込むものではなく、越境する社会を見通しながら、様々な価値観が幅広く議論され、尊重されるために必要な公正さ
- ・ルールに基づいた多角的な議論、連携、実践を拓くコミュニティ環境

●身近なところからのまちづくり

- ・様々な問題や課題を見出していくことがまちづくりの出発点
- ・課題を抱えている現場や当事者の声を聞いて共有する
- ・市民が自分たちのまちづくりを考え、自分たちにできることを実践していくことによって、自分たちに相応しいまちがつくられていく

●地域の自立、そして自治体運営

- ・「代表される者」と「代表する者」との応答的な関係性を確保することによって、説明責任が果たされ、相互信頼が醸成される
- ・まちづくりに活かされるちからが多角的に引き出され、架橋され、活かされていく
- ・様々な可能性を引き出していくまちづくり